

基本施策 A 1 歴史・文化遺産を守り、活かし、伝えます

主管課：文化財課

個別施策

- A1-1 文化財を市民の誇りとして保存・継承し、有効活用を図ります
- A1-2 歴史・文化遺産に対する市民意識を高め、国内外に向けて発信します
- A1-3 史跡「出島和蘭商館跡」の復元整備を推進し、まちづくりに活かします
- A1-4 世界遺産の登録を実現し、その価値を世界に発信します

ア 施策の目的

歴史文化遺産が、市民や事業者の理解のもとに、貴重な財産として、適切に保存・活用され、伝えられている

イ 基本施策の評価

B c 目標をほぼ達成しているものの、目的達成に向けた課題の克服などがやや遅れている

ウ 成果指標（「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標）

指標名	基準値 (時期)	区分	H29	H30	R1	R2	R3
文化財の指定・登録等 件数[累計]	290 件 (26 年度)	↑ 目標値	296	298	300	302	302
		実績値	288	289	290	292	
		達成率	97.3%	97.0%	96.7%	96.7%	
主要な歴史文化施設 ※1を訪れたことが ある市民の割合	59.1% (26 年度)	↑ 目標値	60.6	61.1	61.6	62.1	62.1
		実績値	63.9	64.9	65.7	66.5	
		達成率	105.4%	106.2%	106.7%	107.1%	

※1 計7施設：歴史民俗資料館、外海歴史民俗資料館、シーボルト記念館、サント・ドミンゴ教会跡資料館、歴史文化博物館（企画展を除く）、高島石炭資料館、軍艦島資料館（野母崎地区）

エ 評価結果の妥当性

- (1) 本部会における意見を踏まえて考えると、評価結果については妥当であると判断する。
- (2) 今までに例を見ない感染症なので、入場者については、そもそも人流の促進になってしまうという葛藤もあり、正直どうしようもない。今は準備期間だと考えて、安全第一で一つ一つやっていくしかないと思う。ままならない状況をそのまま評価すると B c になってしまうが、未来に向けて現状を記録しておくという意味で妥当な評価ではないか。

オ 審議会における政策評価に対する意見

- (1) 利用する市民一人当たりにかかるコストをかけているのかなど、費用対効果を見える化するとはしているのか。目標と実績をフォローしてはどうか。コスト意識に裏付された「守り・活かし・伝える」が今一つよく見えないので、将来にわたり適正で、妥当なコストなのかを検証し、コストに見合うような付加価値を高める施策の検討が必要ではないか。

- (2) 文化財の周辺地域の環境整備（ゴミステーション、ポイ捨て・喫煙禁止など）や住民とのコンセンサスも重要なので、その指標となるものがあれば良いのではないかと。
- (3) 個別施策全体を通して指定管理者制度の導入が進んでいる中、評価すべき点、課題として検討すべき点が見えづらく、市民の中には理解されていない面もあり、両面からの具体的記述も必要かと思う。

カ 審議会における施策推進に向けた提言

- (1) 国定重要文化財旧長崎英国領事館の詳細な活用方法について、いまだ決定していないとあるが、本市は他市に比べ、数多くの文化財を有しているのに、多くの観光客を呼び込むための連携した文化財活用のアイデアが不足していると思う。国土交通省が「地方応援隊」として、国土政策局職員 13 人を地域の課題解決の手助けのために派遣している。現在、千葉県いすみ市など 7 市町に派遣されており、今後も拡大される。かなりの成果も出ているようなので、本市もぜひ来てもらって、文化財の活用方法など手助けしてもらおうよう前向きな検討をすべきだと思う。
- (2) 歴史民俗資料館では、よく企画展が行われているが、エレベーターは荷物専用になっているのか、階段の利用が高齢者に不向きである。コロナ禍で歴史の学校が中止となり残念だが、これは続けて行ってほしい。長崎の歴史を学びたい人は多いので文化財サポーターの数を増やす事にもつながると思う。
- (3) 「グラバー園」と「端島」は問題なく知名度が高いが、キリシタン関連遺産は長崎と天草にわたるため、関連遺産とする事を疑問に思う方も多いためである。市民としては、「世界遺産」によって西の果ての長崎の価値が上がり、嬉しく思うが、維持・管理にかかる費用は大変なものになるのではないかと。首里城のようなことがないよう、世界遺産を適切に保全し、その価値を発信してもらいたい。
- (4) 「ガイドの高齢化、そして若年層の担い手がいない」というのは被爆体験継承などでも聞かれる課題なので、取組みが進んでいると思われる被爆継承の方達から学ぶこともあるのではないかと。
- (5) 産業革命遺産である端島炭坑は、保存工事及び活用の仕組みについてかなり取り組んでいるが、同じ産業革命遺産である高島の北溪井坑については、跡地が整備されたのみである。現在、跡地には小さな模型が展示されているが、歴史ある世界遺産なのでもっと価値ある姿が見えるものを展示してもらいたい。近くにはグラバー別邸跡地もあり、見学コースとして成り立たせることで、高島の地域振興に役立つものと思われる。
- (6) コロナ禍における数少ない良かったことの一つは、世のオンライン環境が急激に改善したことで、特定の層にしか届いていなかったりした情報や講座等に、地理的・時間的制約、自身の財政状態等にそれほど捉われない形で参加し、知見を広げることができるようになったことである。逆もしかりで、市内在住者のみならず日本各地や長崎に興味を持ってきている外国の関係人口に向けて、また距離や時間で通常の講座では参加できなかった層へむけて、オンラインの講座を充実させてほしい。また、コロナが収まったあとも充実させた環境を後退させることなく、窓口の一つとして残すことで、より多様な講座参加者の参画を得られるようになる。

- (7) 文化財の保存整備に優先順位をつけることは理解できるが、スピードの遅れにより文化財建造物を失うことがないよう財源・人財の確保についての検討を急いでいただきたい。
- (8) 支援体制が不十分であると思うので、文化庁からの予算を増すために私達市民ができることはないのか。クラウドファンディングなどの資金調達の方法をとることはできないのだろうか。
- (9) 魅力あるまちづくりの一つにあげられる「文化力豊かなまち」は交流都市を目指す長崎にとって極めて重要な課題だと思うが、現状を鑑みると、残念ながら豊かな文化あふれる都市とは言い難いのではないか。旧英国領事館再開後のマスタープランや歴史民俗資料館等の市有施設への施策は、通常の維持の領域を出ていないのではないか。「100年に一度」という表現がよく聞かれるが、「文化財の収蔵と保存継承の拠点」となるまち長崎を目指すといったビジョンを掲げてはどうだろうか。国際都市を目指す、交流人口を増やす等、いずれも文化に裏付された都市への成長実現が伴ってこそだと考える。